

著書（共著・分担執筆）

1. 瀬川朗. (2020). 第2章 家庭科という教科のはじまり. 河村美穂（編）, MINERVA はじめて学ぶ教科教育 8 初等家庭科教育 (pp. 13-22), 京都市: ミネルヴァ書房.
2. 瀬川朗. (2021). 第4章 第4節 家庭科の評価法／第8節 家庭科の教師としての資質や能力. 石崎和宏・中村和世（編）, 新・教職課程演習第15巻 初等生活科教育, 初等音楽科教育, 初等図画工作科教育, 初等家庭科教育, 初等体育科教育, 初等総合的な学習の時間 (pp. 160-163, 176-179), 東京: 協同出版株式会社.
3. 瀬川朗. (2021). 「Q11 生活上の問題を解決する学習における評価規準の作成と評価の留意点について述べなさい」「Q12 体験的な学習における評価規準の作成と評価の留意点について述べなさい」. 宮崎明世・岩田昌太郎（編）, 新・教職課程演習第21巻 中等音楽科教育, 中等美術科教育, 中等家庭科教育, 中等技術分野教育, 中等保健・体育科教育, 高校情報科教育, 中等総合的な学習の時間／探究の時間 (pp. 114-117), 東京: 協同出版株式会社.
4. 瀬川朗. (2023). 第4章 教科担任制と家庭科／第6章 第2節 食生活 1. 栄養・献立と調理（小学校）. 中西雪夫・貴志倫子・小林久美（編）, 小中学校家庭科の授業をつくる: 5年間を見通すための理論・実践・基礎知識 (pp. 36-39, 82-85), 東京: 学術図書出版社.
5. 瀬川朗. (2024). 第14章 家庭科教師のライフストーリーの教員養成における活用. 大学家庭科教育研究会（編）, ウェルビィング実現の主体を育む家庭科教育の理論 (pp. 173-185), 東京: 株式会社ドメス出版.

学術論文

1. 瀬川朗. (2015). 1960 年代の日教組における家庭科教科論の変容 一外崎光広らによる「中央試案」に対する批判から一. 日本家庭科教育学会誌, 58 (3), 153-163. (査読有)
2. 瀬川朗・河村美穂. (2016). 日本家庭科教育学会誌における教師研究の展開 一家庭科教師に関する調査研究を中心に一. 日本家庭科教育学会誌, 59 (3), 144-155. (査読有)
3. 竹内孝治・瀬川朗. (2021). 中学校数学科検定教科書『日常の数学』(1950 年) における単元「私たちの住居」の成立とその背景. 愛知産業大学造形学研究所報, 17, 11-20. (査読有)
4. 竹内孝治・瀬川朗. (2021). 戦後教育改革期の数学科教科書における「住居」についての単元の変遷 一大日本図書『日常の数学』『中学の数学』および『中学新数学』を資料として一. 愛知産業大学造形学研究所報, 17, 21-30. (査読有)
5. 瀬川朗・上田瑞紀. (2022). 里親広報啓発活動における一般市民を対象とした工夫 一鹿児島県における事例一. 鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編, 73, 45-73.
6. 瀬川朗. (2022). 家庭科教師のカリキュラム・デザインに対する個人的生活経験の影響に関する研究. 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士学位論文.
7. 瀬川朗・長拓実. (2023). 小学校家庭科の布を用いた製作題材における技術の検討 一検定教科書の通時的分析から一. 鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編, 74, 111-132.
8. 瀬川朗. (2023). 家庭科教員養成における教師のライフストーリーの活用の効果 一教科観の形成に着目して一. 年報・家庭科教育研究, 40, 27-40. (査読有)
9. 黒光貴峰・山口隼人・瀬川朗・森健太郎・西尾幸一郎. (2024). GIGA スクール構想の充実に向けた技術・家庭科における ICT の効果的な活用. 鹿児島大学教育学部研究紀要 教育実践編, 75, 1-8.
10. 黒光貴峰・山口隼人・瀬川朗・西尾幸一郎. (2024). ICT を活用した情報活用能力を育成する技術・家庭科の教材開発. 鹿児島大学教育学部研究紀要 教育実践編, 75, 9-16.
11. 小清水貴子・瀬川朗・若月温美・椎谷千秋・田中和江・河村美穂・千葉悦子・長拓実・仲田郁子・中村恵美子・松井洋子・松岡文子・横瀬友紀子. (2024). ライフヒストリーの読み合いにおける家庭科教師の省察の様相 一読み合いの記録にみられる気づきに着目して一. 静岡大学教育実践総合センター紀要, 34, 140-153. (査読有)
12. 寺町晋哉・跡部千慧・瀬川朗・高島裕美・波多江俊介・濱貴子・楊川. (2024). 小学校管理職とジエンダー研究の展望 一都道府県の違いに着目して一. 宮崎公立大学人文学部紀要, 31 (1), 53-75.
13. 長拓実・瀬川朗. (2024). スウェーデンの被服製作学習における教師の役割 一個別的な支援に着目して一. 愛知学泉大学紀要, 6 (2), 53-67.
14. 瀬川朗・村田晋太朗. (2024). 中学校家庭科教員の離職意思に影響を与える要因の探索. 日本家庭科教育学会誌, 67 (3), 83-94. (査読有)

学会発表

1. 瀬川朗・河村美穂. (2014). 1970 年代の家庭科教育理論書にみる教育課程編成案の形成. 日本家庭科教育学会第 57 回大会, 2014 年 6 月 29 日, 岡山大学. (日本家庭科教育学会第 57 回大会研究発表要旨集, pp. 74-75)
2. 瀬川朗. (2014). 「労働力再生産論」をめぐる家庭科教育論争 —1960 年代における外崎光広と高知県教職員組合家庭科研究会の主張に焦点をあてて—. 教育史学会第 58 回大会, 2014 年 10 月 4 日, 日本大学. (教育史学会第 58 回大会発表要綱集録, pp. 58-59)
3. 瀬川朗. (2015). 家庭科教師のライフヒストリーとカリキュラム —先行研究の分析を通じて—. 日本教師学学会第 16 回大会, 2015 年 2 月 28 日, 日本女子大学. (日本教師学学会第 16 回大会要旨集, pp.14-15)
4. 瀬川朗・河村美穂. (2015). 『日本家庭科教育学会誌』における教師研究の展開 —家庭科教師に関する調査研究を中心に—. 日本家庭科教育学会第 58 回大会, 2015 年 6 月 28 日, 鳴門教育大学. (日本家庭科教育学会第 58 回大会研究発表要旨集, pp. 112-113)
5. 瀬川朗. (2015). 高等学校家庭科における科目「家庭一般」の成立過程と山本キクの役割. 教育史学会第 59 回大会, 2015 年 9 月 27 日, 宮城教育大学. (教育史学会第 59 回大会発表要綱集録, pp. 128-129)
6. 瀬川朗. (2015). 「大学家庭科教育研究会のいままでとこれから 5」(ゲストスピーカー) —初期の大家研における家庭科教育史研究に学ぶ—. 大学家庭科教育研究会第 162 回例会, 2015 年 12 月 12 日, 東京学芸大学.
7. 瀬川朗・河村美穂. (2016). カリキュラム開発者としての家庭科教師像の変遷 —家庭科教師に求められる資質・能力に関する言説から—. 日本教師学学会第 17 回大会, 2016 年 3 月 6 日, 奈良学園大学. (日本教師学学会第 17 回大会要旨集, pp. 86-87)
8. 瀬川朗. (2016). 日教組中教研家庭科部会による「中央試案」(1961 年) の作成過程 —「生活」の捉え方に着目して—. 日本カリキュラム学会第 27 回大会, 2016 年 7 月 3 日, 香川大学・香川大学教育学部附属高松小学校. (日本カリキュラム学会第 27 回大会発表要旨集録, pp. 173-174)
9. 瀬川朗・河村美穂. (2016). 女子向き科目「家庭一般」の成立と展開 —学習指導要領のカリキュラム構造における「生活」の位置づけ—. 日本家庭科教育学会第 59 回大会, 2016 年 7 月 10 日, 朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター. (日本家庭科教育学会第 59 回大会研究発表要旨集, pp. 184-185)
10. 瀬川朗. (2017). 家庭科教師のカリキュラム観の形成における生活経験が与える影響 —質問紙調査をもとに—. 日本教師学学会第 18 回大会, 2017 年 3 月 4 日, 早稲田大学. (日本教師学学会第 18 回大会要旨集, pp. 46-47)
11. 瀬川朗・河村美穂. (2017). 家庭科教師の意図するカリキュラムと私的生活経験 —「目標」に関する記述の質的内容分析をもとに—. 日本家庭科教育学会第 60 回大会, 2017 年 6 月 25 日, 国立オリンピック記念青少年総合センター. (日本家庭科教育学会第 60 回大会研究発表要旨集, pp. 110-111)
12. 若月温美・河村美穂・小清水貴子・椎谷千秋・千葉悦子・滝本浩世・仲田郁子・中村恵美子・松井洋

- 子・松岡文子・瀬川朗. (2017). 家庭科教師の成長に関する研究 ー教職経験におけるエピファニーに焦点化してー. 日本家庭科教育学会第 60 回大会, 2017 年 6 月 25 日, 国立オリンピック記念青少年総合センター. (日本家庭科教育学会第 60 回大会研究発表要旨集, pp. 184-185)
13. Segawa, A. (2017). Influence of Home Economics Teachers' Personal Life Experiences on Curriculum Orientation: A Quantitative Study. Asian Regional Association for Home Economics 19th Biennial International Congress, August 7, 2017, National Olympics Memorial Youth Center, Tokyo, Japan. (Asian Regional Association for Home Economics 19th Biennial International Congress Book of Abstract, p. 30)
14. Segawa, A. & Kawamura, M. (2017). Exploring relationships between curriculum orientations and family life experience of home economics teachers in Japan. Association for Teacher Education in Europe 42nd Annual Conference, 23 to 25 October 2017, Hotel Dubrovnik Palace, Dubrovnik, Croatia. (Association for Teacher Education in Europe 42nd Annual Conference Book of Abstract, p. 276)
15. 瀬川朗・宮野尚. (2017). 教師によるプロジェクト型カリキュラム開発の成立条件の探究. 東京学芸大学連合学校教育学研究科第 14 回研究討論会, 2017 年 12 月 9 日, 弘済会館.
16. 河村美穂・若月温美・瀬川朗. (2018). ライフヒストリーにおけるエピファニーからみる教師の成長 ー家庭科教師による 9 つのライフヒストリーを用いてー. 日本教師学学会第 19 回大会, 2018 年 3 月 3 日, 甲南大学. (日本教師学学会第 19 回大会要旨集, pp. 32-33)
17. 瀬川朗・河村美穂. (2018). ナラティヴ・アカウントにみる教師の私的生活経験のカリキュラム・デザインへの影響. 日本教師学学会第 19 回大会, 2018 年 3 月 3 日, 甲南大学. (日本教師学学会第 19 回大会要旨集, pp. 34-35)
18. 瀬川朗・河村美穂. (2018). ナラティヴ・アプローチによる家庭科教師のカリキュラム・デザインと私的生活経験の関連の検討. 日本家庭科教育学会第 61 回大会, 2018 年 7 月 7 日, 茨城大学. (日本家庭科教育学会第 61 回大会研究発表要旨集, pp. 30-31)
19. 瀬川朗・田島諒子・佐々木敏. (2018). 血中 25(OH)D 濃度と骨の健康・ビタミン D 摂取・日光曝露関連のレビュー ー食事摂取基準 2020 年版策定に向けてー. 第 65 回日本栄養改善学会学術総会, 2018 年 9 月 5 日, 朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター. (第 65 回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集, p. 212)
20. 瀬川朗・河村美穂. (2019). 家庭科教師の自伝的ナラティヴにおける職業生活経験と個人的生活経験. 日本家庭科教育学会第 62 回大会, 2019 年 6 月 30 日, 金城学院大学. (日本家庭科教育学会第 62 回大会研究発表要旨集, pp. 64-65)
21. Segawa, A. (2019). A Mixed Method Study on Home Economics Teachers' Beliefs about Curriculum Design. Association for Teacher Education in Europe 44th Annual Conference, 13 to 16 August 2019, Bath Spa University, Bath, UK. (Association for Teacher Education in Europe 44th Annual Conference Book of Abstract, p. 109)
22. Segawa, A. (2019). Experienced Teachers' Knowledge and Skills for Teaching Home Economics: Focusing on the Acceptance of Learner-centered Orientation. International Conference on

‘WAZA’ : Craft Knowledge and Skills in Teaching & Nursing, 9 to 10 November 2019, Waseda University, Tokyo, Japan. (Abstract Book of International Conference “How People Learn ‘WAZA’ : From the Educational Field of Teaching and Nursing,” pp. 18-19)

23. 瀬川朗. (2021) . 家庭科教師のカリキュラム・デザインに個人的生活経験はどのように影響するか—ライフストーリー・インタビューの質的分析に基づく考察—. 日本教師学学会第 22 回大会, 2021 年 3 月 14 日, オンライン開催. (日本教師学学会第 22 回大会要旨集, pp. 75-76)
24. 瀬川朗. (2022) . カリキュラム・デザインと個人的生活経験の関係 一家庭科教師に対する量的・質的調査から—. 日本教師学学会第 23 回大会, 2022 年 3 月 6 日, オンライン開催. (日本教師学学会第 23 回大会要旨集, pp. 78-79)
25. 瀬川朗. (2022) . 家庭科教師のカリキュラム・デザインに対する個人的生活経験の影響に関する研究. 生活科学系コンソーシアム主催 第 13 回博士課程論文発表会, 2022 年 3 月 21 日, オンライン開催. (第 13 回生活科学系 博士課程論文発表会要旨集, pp. 24-25)
26. 瀬川朗・村田晋太朗. (2022) . 中学校家庭科教員のキャリア継続意識に関する試行的考察 一質問紙調査票の作成—. 日本家庭科教育学会第 65 回大会, 2022 年 7 月 3 日, オンライン開催. (日本家庭科教育学会第 65 回大会研究発表要旨集, p. 48)
27. 瀬川朗・春田真綺. (2022) . 女性教員の管理職志向と離職意思 一家庭科教員の特徴に着目した二次分析—. 日本家庭科教育学会九州地区会第 24 回研究発表会, 2022 年 7 月 23 日, オンライン開催. (日本家庭科教育学会九州地区会第 24 回研究発表会要旨集, p. 2)
28. 瀬川朗. (2022) . 家庭科教員養成における授業デザインの力量形成 (研究報告 14) . 大学家庭科教育研究会第 174 回例会, 2022 年 9 月 17 日, オンライン開催.
29. 瀬川朗・中馬百香. (2023) . 魚食普及活動におけるゲストティーチャーと学校園との連携における課題. 日本教師学学会第 24 回大会, 2023 年 3 月 18 日, 日本赤十字広島看護大学. (日本教師学学会第 24 回大会要旨集, pp. 15-16)
30. 村田晋太朗・瀬川朗. (2023) . 中学校家庭科教員のキャリア継続意識に関するインタビュー調査 一家庭科の特性に着目して—. 日本家庭科教育学会第 66 回大会, 2023 年 7 月 2 日, オンライン開催. (日本家庭科教育学会第 66 回大会研究発表要旨集, p. 42)
31. 長拓実・瀬川朗. (2023) . スウェーデンの被服製作学習における個別最適な学びの実態 一授業観察記録の分析—. 日本家庭科教育学会第 66 回大会, 2023 年 7 月 2 日, オンライン開催. (日本家庭科教育学会第 66 回大会研究発表要旨集, p. 55)
32. Segawa, A. & Murata, S. (2023) . Turnover Intentions of Home Economics Teachers in Japan: A Quantitative Survey. Asian Regional Association for Home Economics 21st Biennial International Congress, August 10, 2023, Armada Hotel, Petaling Jaya, Selangor, Malaysia. (Asian Regional Association for Home Economics 21st Biennial International Congress Abstract Book, p. 32)
33. 長拓実・瀬川朗. (2023) . スウェーデンのナショナルカリキュラムの改訂に伴うスロイド学習内容の変化 一2022 年版と 2018 年版以前の比較—. 日本家政学会中部支部第 67 回大会, 2023 年 9 月 9 日,

愛知学泉大学. (日本家政学会中部支部第 67 回 (2023 年度) 大会 一般公開講演会・研究発表会要旨集, p. 25)

34. 寺町晋哉・高島裕美・木村育恵・波多江俊介・濱貴子・楊川・跡部千尋・瀬川朗. (2023) . 小学校管理職をめぐるジェンダー・パターン研究の動向と展望. 日本教育社会学会第 75 回年次研究大会, 2023 年 9 月 9 日, 弘前大学. (日本教育社会学会第 75 回大会発表要旨集録, pp. 117-120)
35. 波多江俊介・寺町晋哉・跡部千尋・木村育恵・瀬川朗・高島裕美・濱貴子・楊川. (2023) . 小学校管理職への昇任をめぐるジェンダー・パターン 一校務分掌上の主要補職に着目して一. 日本教育社会学会第 75 回年次研究大会, 2023 年 9 月 10 日, 弘前大学. (日本教育社会学会第 75 回大会発表要旨集録, pp. 247-248)
36. 長拓実・瀬川朗. (2024) . スウェーデンのテキスタイルスロイド教師はどのようにカリキュラムを構想しているか. 日本家庭科教育学会第 67 回大会, 2024 年 7 月 6 日, オンライン開催. (日本家庭科教育学会第 67 回大会研究発表要旨集, p. 39)
37. 瀬川朗・村田晋太朗. (2024) . 中学校家庭科における「専門外の授業担当 (OOFT) 教員」に関する基礎的研究. 日本家庭科教育学会第 67 回大会, 2024 年 7 月 7 日, オンライン開催. (日本家庭科教育学会第 67 回大会研究発表要旨集, p. 66)
38. 生野杏朱・黒光貴峰・瀬川朗・瀬戸房子. (2024) . 中学校家庭科における資質・能力を踏まえた授業づくりへの提案 一食生活領域における授業の効果検証をもとに一. 日本家庭科教育学会九州地区会第 25 回研究発表会, 2024 年 7 月 20 日, くまもと県民交流館パレア. (日本家庭科教育学会九州地区会第 24 回研究発表会要旨集, p. 2)
39. 瀬川朗・中西雪夫・岡陽子・黒光貴峰・駒津順子・土屋善和・中島教子. (2024) . 教員養成段階で修得させたい家庭科教員としての資質・能力 一指導主事等へのインタビュー調査から一. 日本家庭科教育学会九州地区会第 25 回研究発表会, 2024 年 7 月 20 日, くまもと県民交流館パレア. (日本家庭科教育学会九州地区会第 24 回研究発表会要旨集, p. 5)
40. 長拓実・瀬川朗. (2024) . スウェーデンのスロイド科教師における被服製作指導の意図と工夫. 日本産業技術教育学会第 67 回全国大会, 2024 年 8 月 18 日, 鳴門教育大学. ((一社) 日本産業教育学会第 67 回全国大会 (鳴門) 講演要旨集, p. 204)
41. 寺町晋哉・木村育恵・波多江俊介・濱貴子・楊川・跡部千尋・瀬川朗・高島裕美・柴田里彩. (2024) . 小学校女性管理職をめぐる同一県内の世代差・地域差の分析 一女性管理職割合が高い県に着目して一. 日本教育社会学会第 76 回年次研究大会, 2024 年 9 月 13 日, 信州大学. (日本教育社会学会第 76 回大会発表要旨集録, pp. 37-40)
42. 生野杏朱・黒光貴峰・瀬川朗・金娟鏡・瀬戸房子. (2024) . 高校生は家庭科の学習内容を生活に生かしているのか. 日本家政学会九州支部第 68 回大会, 2024 年 10 月 5 日, 鹿児島県立短期大学. (2024 年度 (第 68 回) 一般社団法人日本家政学会九州支部大会研究発表会要旨集, p. 23)

その他

1. 菊野暁・瀬川朗. (2016). 三角形の住宅の間取りを考える（第7回住教育授業づくり助成 実践報告）. 一般財団法人住総研 授業実施例報告書.
2. 河村美穂・小清水貴子・椎谷千秋・千葉悦子・滝本浩世・仲田郁子・中村恵美子・松井洋子・松岡文子・若月温美・秋谷博子・瀬川朗（家庭科の授業を創る会）. (2016). 2015, 2016年度研究助成グループ研究計画「ライフヒストリーでたどる家庭科教師の成長」. 日本家庭科教育学会関東地区会会報, 33, 10.
3. 瀬川朗. (2016). 「大学家庭科教育研究会の今までとこれから 5」—初期の大家研における家庭科教育史研究に学ぶ—. 大学家庭科教育研究会会報, 132, 4-7.
4. 瀬川朗. (2017). 教師のライフヒストリー研究. 家庭科の授業を創る会編『9つのライフヒストリーにみる家庭科教師のくらしとキャリア』. 8-9.
5. 瀬川朗. (2017). 教師による自伝的ライフヒストリー.「家庭科の授業を創る会編『9つのライフヒストリーにみる家庭科教師のくらしとキャリア』. 18-21.
6. 河村美穂・小清水貴子・椎谷千秋・千葉悦子・滝本浩世・仲田郁子・中村恵美子・松井洋子・松岡文子・若月温美・秋谷博子・瀬川朗（家庭科の授業を創る会）. (2017). 2015, 2016年度研究助成グループ中間研究報告「ライフヒストリーでたどる家庭科教師の成長」. 日本家庭科教育学会関東地区会会報, 34, 10.
7. 瀬川朗. (2018). 新刊紹介『楽しもう家政学—あなたの生活に寄り添う身近な学問』. 日本家庭科教育学会誌, 60 (4), 214.
8. 河村美穂・小清水貴子・椎谷千秋・千葉悦子・滝本浩世・仲田郁子・中村恵美子・松井洋子・松岡文子・若月温美・秋谷博子・瀬川朗（家庭科の授業を創る会）. (2018). 2015, 2016年度研究助成グループ成果報告「ライフヒストリーでたどる家庭科教師の成長」. 日本家庭科教育学会関東地区会会報, 35, 7.
9. 足立奈緒子・白井正美・瀬川朗・田島諒子. (2018). 骨の健康状態と血中ビタミン D 濃度の関連および、ビタミン D 摂取量・日光曝露量と血中ビタミン D 濃度の関連. 日本人の食事摂取基準（2020年版）の策定に資する代謝性疾患の栄養評価並びに各栄養素等の最新知見の評価に関する研究 平成29年度総括・分担研究報告書（研究代表者・佐々木敏）, 167-202.
10. 河村美穂・小清水貴子・椎谷千秋・千葉悦子・滝本浩世・仲田郁子・中村恵美子・松井洋子・松岡文子・若月温美・瀬川朗（家庭科の授業を創る会）. (2019). 2017, 2018年度研究助成グループ成果報告「子どもたちの『主体的で深い学び』を支える家庭科教師のリフレクション—授業経験の振り返りから家庭科の授業を考える（ワークショップ形式で）—」. 日本家庭科教育学会関東地区会会報, 36, 8.
11. 瀬川朗. (2022). 令和3年度 博士論文要旨（家庭科教育関係）家庭科教師のカリキュラム・デザインに対する個人的生活経験の影響に関する研究. 日本家庭科教育学会誌, 65 (2), 107.
12. 瀬川朗. (2022). 家庭科教員養成における授業デザインの力量形成（研究報告14）. 大学家庭科教

育研究会会報, 148, 2-4.

13. 瀬川朗・春田真綺. (2023). 女性教員の管理職志向と離職意思 一家庭科教員の特徴に着目した二次分析—. 日本家庭科教育学会九州地区会会報, 33, 6-7.
14. 瀬川朗. (2024). 取組事例「家庭科における安全・安心な調理実習のために」. 消費者教育ポータルサイト. <https://www.kportal.caa.go.jp/casestudy/001299/>
15. 瀬川朗. (2024). 日本家庭科教育学会 第66回大会報告 実行委員会企画：家庭科誕生75年（3/4世紀）家庭科のこれまでとこれから 第I部 座談会「あの時家庭科は」. 日本家庭科教育学会誌, 66 (4), 169-170.
16. 中西雪夫・岡陽子・黒光貴峰・駒津順子・瀬川朗・土屋善和・中島教子. (2024). 九州地区会における共同研究報告 共同研究(2)「教員養成段階で習得させたい家庭科教員としての資質・能力—優れた家庭科授業・優れた家庭科授業者が備えている要素・資質の分析—」. 日本家庭科教育学会九州地区会会報, 35, 6.

(2024年11月作成)